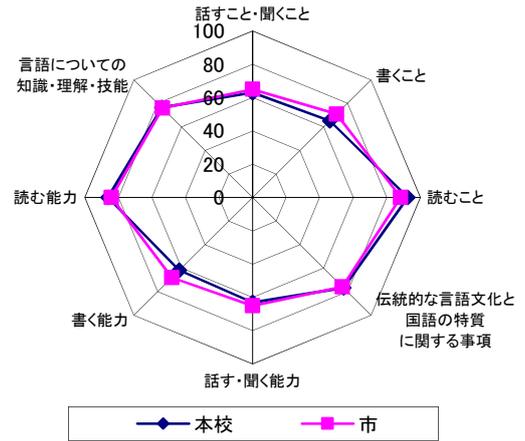


宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【国語】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	話すこと・聞くこと	63.0	65.0	62.9
	書くこと	65.2	70.9	71.3
	読むこと	92.5	88.4	87.2
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	76.8	75.8	75.3
観点別	話す・聞く能力	63.0	65.0	62.9
	書く能力	61.7	68.0	68.0
	読む能力	86.1	84.2	82.8
	言語についての知識・理解・技能	76.5	75.9	75.6

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

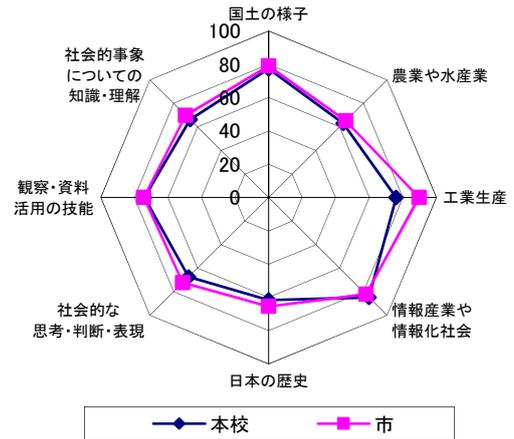
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	市の平均より低い。 ●選択の設問では市の平均とほぼ同じで答えられるが、記述式の設問でかなり低めになった。内容は、司会者の立場で、友達にどう注意するかという設問であった。異なる意見をまとめ整理して話すことに課題がある。	・今年度、話す力聞く力の育成を目指して授業研究をし、話し合い活動については指導を強化してきたが、次年度も継続していきたい。特に、司会者を誰もが経験して、異なる意見の相違点や類似点を整理して話せるようにするために、小グループでの話し合い活動を多く取り入れたい。
書くこと	市の平均より最も低い。 ●選択の設問では、市の平均とほぼ同じであった。しかし、3つの資料を比べて読み取り、前後の文章に合うように適切に書くという記述式の設問に対し、課題が残った。	・異なる結果の資料の読み取りから分かったことをまとめる活動を国語科だけでなく、他の教科活動でも積極的に取り入れていく。また、この設問が以前の全国学力テストの問題であったので、このような問題に取り組みせ慣れさせることも必要である。
読むこと	平均正答率は他の領域より高く、市の平均より高い。 ○物語文でも説明文でも内容を的確に読み取り、正答率が100%であった問題も多かった。	・文章の要旨(作者の一番表現したいこと)を読み取る設問は、市の平均より低かったものもあった。授業の中で登場人物の行動の意味を読み取る時、意見を交流することで深い心情の理解ができるように支援したい。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	市の平均よりやや高い。 ○漢字については、5・6年の範囲の出題であったが、特に5年の漢字の読みも、書きも正答できる児童が多い。繰り返し練習の成果である。 ●主語と述語を逆に取り違えて答えている児童が多く見られ、この設問の正答率はかなり低い。	・主語と述語については、もう一度取り出して指導する必要がある。また、低学年から継続して指導する内容であるので、学校全体で注意して指導したい。これから、文や文章を書く際にも、主語と述語のつながりが合っているか確かめさせる習慣を付けていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の様子	77.4	79.1	74.9
	農業や水産業	63.0	65.1	63.7
	工業生産	76.1	89.7	86.2
	情報産業や情報化社会	84.8	82.2	73.1
	日本の歴史	61.6	65.4	65.6
観点別	社会的な思考・判断・表現	67.5	72.2	69.0
	観察・資料活用の技能	74.0	74.3	69.2
	社会的な事象についての知識・理解	66.1	69.9	69.3

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

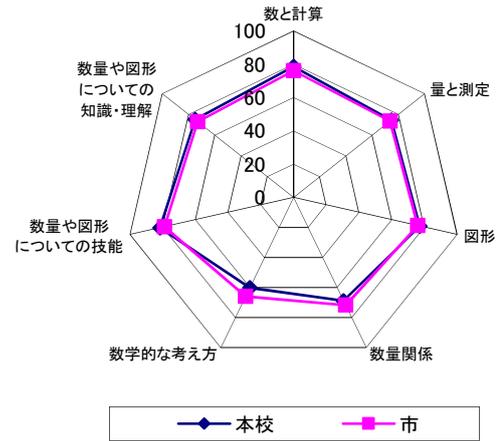
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の様子	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○日本の周辺の海洋名や主な国の名称と市については理解している。</p> <p>●日本の国土の範囲を問う内容や国民が防災意識を高める大切さについて考える内容について誤答が多くみられた。なかでも思考力を伴う設問への対応に課題が見られる。</p>	<p>・国土の広がりや領土については、地図帳、地球儀を用いながら白地図を活用した作業をとおして、学ばせる。その際は、写真や映像資料なども併せて用いることにより、より印象付けを図りたい。</p> <p>・防災意識の向上については、自分も国民の一人としてできることやなすべきことを学級や小グループで話し合う活動をとおして、意見を持たせることを積み重ねていく。</p>
農業や水産業	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○複数の資料を読み取りながら、食料自給率と食料輸入額の間を捉えることができる。</p> <p>●日本の米作りの問題点や外国産の農産物が安価な理由を考える内容の誤答が多く、思考力を用いて表現することに課題が見られる。</p>	<p>・グラフの基本的な読み取り方をその都度確認しながら指導するとともに、複数の資料を関連付けたり比較したりして考える時間を増やすようにする。</p> <p>・資料から読み取れることをキーワードを用いて書き表わしたり、意見交換したりして考える活動時間を意図的に設ける。</p>
工業生産	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>●工業製品の種類について理解が十分でない児童が多い。</p> <p>●文章資料を基にして、優れた製品を生み出す工夫や努力について考えることに苦手意識がある児童が多い。</p>	<p>・身近な工業製品を取り上げ、分類・整理するなどの活動をとおして、習熟を図る。</p> <p>・消費者のニーズに答えるために企業が日々研究や努力をしていることを押さえた上で新製品を生み出す、自分なりのアイデアを出したり、その考えについて専門家の意見を聞くなど、提案型の授業展開を工夫する。</p>
情報産業や情報化社会	<p>平均正答率は、市の平均より高く、昨年度と比較しても高い。</p> <p>○マスメディアの種類やその特徴についてはよく理解している。</p> <p>●図を読み取りながら情報ネットワークの利便性について考える内容の誤答が多い児童が見られる。</p>	<p>・身近な情報ネットワークの事例を取り上げ、活用の有効性をていねいに調べ、意見交換の場を設ける。</p> <p>・調べ学習で得た知識や理解したことなどを関係図を用いながらまとめる機会を増やす。</p>
日本の歴史	<p>平均正答率は、市の平均より低い。</p> <p>○室町文化の内容についてよく理解している。</p> <p>○鎖国に関する資料と絵図の関係を捉えることができている。</p> <p>●文章資料から刀狩政策を答える問いや絵を見ながら文明開化を答える問題に誤答が多く見られた。</p>	<p>・引き続き、他教科や領域における体験学習と関係づけながら授業展開を工夫する。</p> <p>・各時代の代表的な政策は当時の権力者が法令によって行っていることを具体的な資料をていねいに読み取らせ、理解させる。</p> <p>・時代やその暮らしぶりの変化などは、写真や絵を比較して、話し合う活動を設けることにより、気付かせたり考えさせたりする。</p>

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【算数】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	数と計算	78.7	76.2	72.9
	量と測定	74.5	73.6	70.6
	図形	77.2	76.0	72.1
	数量関係	68.8	71.8	66.9
観点別	数学的な考え方	60.2	65.9	58.0
	数量や図形についての技能	81.7	78.9	76.2
	数量や図形についての知識・理解	75.1	73.1	70.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

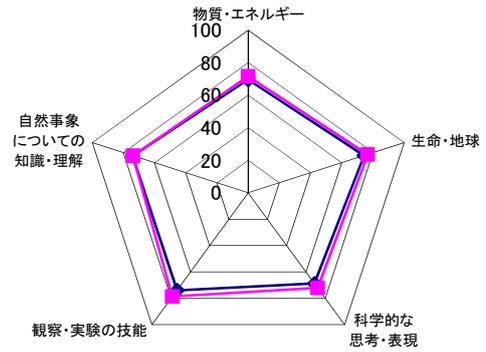
領域	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	市の平均よりも高い。 ●基本的な問題では、市の平均を大きく上回っているが、活用問題では、かなり低めになった。特に、問題の場面を理解し、なぜそうなるのかを説明する記述式の設問の正答率が低い。問題の意図を理解し、自分の考えを分かりやすく説明することに課題が見られる。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・基本的な計算については、学校だけでなく、家庭学習においても継続的に取り組み、さらなる定着を図っていききたい。 ・自分の考えを記述式で説明するなどの活用問題を苦手としている傾向があるため、言葉の意味やその言葉が式のどの部分に当たるのかを十分に理解させ、言葉で説明したり、記述したりする活動を取り入れていきたい。
量と測定	市の平均よりも高い。 ○面積や体積を求める設問では、市の平均を大きく上回っている。 ●単位量あたりの大きさ・速さを問う設問では、市の平均を10ポイント以上下回っており、速さを比較し、判断の理由を記述式の設問に対し、課題が残った。	・基礎的な知識については、家庭学習などを活用して復習する時間を確保し、確実な定着を図っていききたい。 ・数学的な考え方に関する活用問題を苦手としている傾向があるため、なぜそうなったのかを伝え合う活動を多く取り入れ、確認をしていきたい。
図形	市の平均よりも高い。 ○作図の設問に対しては、正答率が100%であり、三角形の作図の仕方の定着が見られる。 ●多角形の内角の和を求める設問や線対称の軸の数を求める設問に対し、課題が見られる。	・図形の性質について、再度確認し、整理して理解を促していきたい。 ・多角形の内角の和や線対称、点対称については、図形の性質を理解させたうえで、多くの問題に取り組み、再度確認しながら定着を図っていききたい。
数量関係	市の平均よりも最も低い。 ●比例の関係式を表す設問では100%の正答率であるが、グラフから割合を読み取り、比較量を求める問題や単位量あたりの大きさを求める記述式の設問では、正答率が低いことから、活用問題に対する課題が見られる。	・基本的な知識や技能を問う問題においては、正答率は低くないが、知識や技能を活用する問題になると正答率が非常に低くなる。復習を行う時間を確保し、類似問題を解くことによって、必要な情報を読み取り活用する力を身に付けることができるようにしていきたい。

宇都宮市立上河内西小学校 第6学年【理科】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	物質・エネルギー	69.6	71.6	67.4
	生命・地球	74.2	76.6	75.5
観点別	科学的な思考・表現	68.8	72.1	68.8
	観察・実験の技能	73.9	78.7	76.3
	自然事象についての知識・理解	74.1	73.9	71.5

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



● 本校 ● 市

★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
物質・エネルギー	<p>市の平均より低い。</p> <p>○「水溶液の性質」の設問は、全て市平均を上回っており、確実な定着が見られる。また、「物の燃え方」についても正答率が高い項目が多い。</p> <p>●「振り子の性質」についての設問は、全て市平均を下回っており、定着に課題が見られる。また、「電流のはたらき」について、市平均の正答率を大きく下回る設問が見られた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「振り子の振り幅」は往復の時間に関係ないことと、「振り子の長さ」は長さに比例して往復の時間も長くなることを正しく理解させる必要がある。そのため、実験を見直し、正しく捉える機会を設けていきたい。 ・気体の性質によって、集気びんへの集め方が異なることが理解できるように、「酸素→水に溶けにくい→水上置換」「二酸化炭素→水に溶けやすい→水上置換に適さない→空気より重い→下方置換」といった理由に基づいた説明をさせる工夫を取り入れたい。
生命・地球	<p>市の平均より低い。</p> <p>○おおむね市平均と同程度である。「月と太陽」「食物連鎖」など、平均正答率が低めの設問も正答率が高く、定着が見られる。</p> <p>●「だ液のはたらき」の設問において、正答率が市平均を大きく下回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・特に正答率が低かった設問は、筆記問題であり、「だ液の性質」を理解していないと解答することができないものだった。だ液は「体温と同程度の温度のとき」にでんぷんを分解するので、「冷たい水の中から、あたたかいお湯の中に試験管を移し替える。」のが模範解答であった。性質を正しく理解し、その上で正しい実験方法を考えるのは、だ液の実験以外でも思考力を高めるのに有効である。正しい実験方法に敢えて欠点を盛り込み、その欠点を探させるなど、普段から思考力を高める場面を盛り込んでいきたい。